

意見交換会開催結果

開催日	平成30年4月19日(木)	開催場所	和泉市コミュニティセンター 1F 大集会室
-----	---------------	------	--------------------------

【出席者】 (順不同) 参加団体 15団体 18名

Aグループ

黒田委員、笠井委員、あおばお助け隊、和泉市ディスコン協会、
ガールスカウト大阪府第28団、四季の味覚祭実行委員会、
伯太フェスタ実行委員会、レインボーシード

Bグループ

青山委員、緑ヶ丘世代間交流推進委員会、四季の味覚祭実行委員会、
モア21、コーラスグループぶどうの木、レインボーシード、
いずみこどもAID

Cグループ

湯川委員、小泉委員、緑ヶ丘世代間交流推進委員会、
ミータスコア・グループ未来、泉州信太山盆踊り保存会、
伯太フェスタ実行委員会

【件名】 和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業 意見交換会

【開催の趣旨】

ちよいず（和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業）について、今年で8年目を迎える。自分たちの活動の啓発や対象経費、本制度ができたことによる効果、本制度に対する考え等について、当該事業に参加している市民活動団体同士が意見交換を行うことで、当該制度を充実させ、市民活動の活性化の促進に寄与することを目的として開催した。

【意見交換会方法】

参加者を3つのグループに分け、以下の検討テーマについて、ワークショップ方式で各グループが議論を行う。その後、議論結果について、各グループの代表者が発表を行い、判定会委員より講評を頂く。

【検討テーマ】

「市民活動支援事業の投票制度をどのように思っているか」というテーマで、この制度に参加していただいている各市民活動団体の皆様に支援金の交付決定方法を市民の投票制度にしていることに対してどのように思っているのかを意見を出し合ってもらいます。

以下の議論結果については、各グループから出た意見を集約しています。

【検討テーマ】市民活動支援事業の投票制度をどのように思っているか

[Aグループ]

○良い点

・本制度の冊子配布により、市民に団体の活動を知ってもらえる機会が得られ、活動の活性化につながっている。

○悪い点

・コストがかかりすぎている。
・地縁団体が強すぎて、公益的な事業をしているけれど、多くの人に理解されにくい団体に票がはいらない状況が出ている。

○本制度の改善点もしくは投票制度以外の市民活動を支援する方法

・本制度の中で、団体に投票するだけでなく、ちよいづ制度そのものに投票する枠を設ける。
・本制度の投票の方法に、選挙のように、個人を確認し、投票用紙を配れば、投票しやすくなる。
・新たな市民活動支援制度として、市民投票でなく、有識者による審査会にする。

[Bグループ]

○良い点

・プレゼン形式だと専門家にしか伝わらないが、今の方法だと市民に直接伝わる。

○悪い点

・高齢者に本制度を理解してもらえない。
・投票を手間と感じる市民もいる。
・地縁団体が票を獲得しやすく、知り合いの数が得票に繋がっている部分がある。
・自分が参加しにくい団体には投票できない。(遠くの団体がしている事業には投票しようと思わない等)
・市民の本制度に対する認知度が低い。

○制度の改善点もしくは投票制度以外の市民活動を支援する方法

・どの団体を支援するか選べないが、市民活動を支援したい人のために、団体に投票するだけでなく、ちよいづ制度そのものに投票する枠を設ける。
・本制度を盛り上げるための、ちよいづ盛りあげ隊のような、市民活動全体を応援する取り組みを活性化させる。
・支援金の金額について、市民税の1%が上限と決まっているのなら、1%全額を使う方法がある。
・本制度の市民への周知方法として、多くの人に集ってもらい、公開プレゼンをして投票してもらう機会を作ったり、買い物ついでに投票できるようにしたり等、投票しやすい仕組みづくりをする。

[Cグループ]

・ちよいづ制度自体が難しく、初めて申請する団体は申請が難しいし、票を集めるのが大変な団体もある。
・全戸配布するちよいづの冊子などにお金がかかっているにも関わらず、投票されず捨てられてしまっている。
・地縁団体は強いが、それ以外の団体はなかなか票を獲得できない。

【各判定会委員の講評】

【青山委員】

本日、意見交換会の中で話題にあがったような、コスト面や公益的な事業をしているけれど団体の規模が小規模で、単年で本制度への参加をやめてしまっている団体もあり、全ての市民活動団体の芽を育みきれていない、非常に難しい局面にきていると感じています。

本日、皆様の意見を頂き、ちよいづが持つ神髓を改めて感じさせてもらいました。

市民が、わが町にある課題や、より豊かでアクティブに和泉市で生活を送れるように、色々な活動について、まずは知るといことがちよいづにおいてはすごく重要だと思います。

課題の解決や、市民活動の活性化のために、市民が投票を通じて団体を支えたり、団体の活動に参加したり、担い手になったりと裾を広げていくのがちよいづ本来の目指しているところと改めて感じました。

本日頂いた皆様の意見をふまえて、改めて自分自身も一緒に考えていきたいと感じました。

【笠井委員】

意見交換会で、単独で事業をされている団体は得票に苦労していると実感しました。

その中で、各団体にではなく、ちよいづ全体に投票するという意見が出て、本当に良い意見だと思います。

【小泉委員】

皆さまからの色々な意見をいただき、我々行政職員として、ちよいづの投票制度を今後どうしていったら良いのかということについては、非常に難しく、悩ましいと思います。

市民活動を支援していくという市の立場は、これまで通りで、より活性化していきたいという思いは強く持っています。

もともとちよいづの始まりは市民全体から市民活動を支援してもらおうということで、投票制度で始めた訳ですが、地縁団体等が票を獲得している一方、非常に公益性の高い活動をされているけれど、規模が小さく、票を獲得できていない団体も含めて、多種多様な団体を支援していきたいと思っているので、投票制度を今後どうしていくかを皆さまからいただいた意見をふまえて、今後さらに検討を深めてまいりたいと思います。

【湯川副会長】

団体の皆様の意見を聞き、本制度が難しい局面にきていると感じました。

ちよいづ盛りあげ隊のように市民活動全体を盛りあげようとしている団体もあれば、なかなか団体の規模が小規模で票を得られていない団体もある中で、そこをどう埋めていくかが課題なのかと思います。

市民活動は、地域課題の解決と理想実現の両方あると思いますが、自分たちの暮らしがどう幸せになるか、どう豊かになるかというところには票が集まりやすいと感じました。

しかし、和泉市の地域課題の解決にも目を向けていかないといけなく、多種多様な市民活動を活性化するためにどのような仕組みが必要かを考える中で、この制度の魅力は市民が選択できる場所で、今後その仕組みが、投票制なのか、他の形なのかを皆さまと考えていけたら良いと思いました。

【黒田会長】

全国で、本制度を一番に始めた市川市、その他3市が投票制度を辞め、投票制度自体が全国的に検討されている中、和泉市は現在も本制度を続けられています。

投票率が15%をきっている状況ですが、他市に比べ、高い投票率を維持できていて、ちよいづへの参加をやめてしまった団体がある一方、新たに参加される団体や、本制度を活用して成長し続けている団体もあるので、ちよいづの目的、効果、これまでの実績は確かなものとして理解しています。

意見交換会で、色々な団体がある中、得票の仕方に課題がでてきているという意見がでてきて、

多種多様な団体が、同じ土俵で票を分かつ部分も今後どう改善していくのか、皆さまと検討していくべきことかと思えます。

今後も、市民活動団体の市民活動を盛り上げたいという共通の目標を忘れずに、良い部分を維持し、どのように変革していくか話し合っていけたらよいと改めて思いました。